

The SCSK logo is rendered in a bold, blue, sans-serif font. The letters 'S', 'C', and 'K' are significantly larger than the 'S' and 'K' in 'CSK', creating a distinctive, stylized appearance. The logo is positioned in the upper right quadrant of the page.

**SCSK**

平成24年3月期

# 中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

夢ある未来を、共に創る

SCSK株式会社

証券コード：9719

私たちの使命

# 夢ある未来を、共に創る

お客様からの信頼を基に、共に新たな価値を創造し、夢ある未来を拓きます。

私たちの3つの約束

- **人を大切にします。**  
一人ひとりの個性や価値観を尊重し、互いの力を最大限に活かします。
- **確かな技術に基づく、最高のサービスを提供します。**  
確かな技術とあふれる情熱で、お客様の喜びと感動につながるサービスを提供します。
- **世界と未来を見つめ、成長し続けます。**  
全てのステークホルダーの皆様とともに、世界へ、そして未来へ向けて成長し続けます。

contents

1	経営理念	9	主な沿革
2	トップメッセージ	11	連結財務諸表
3	連結業績について	13	株式情報
4	経営計画について	14	会社概要

## SCSとCSKの強みをひとつにして、 ビジネスの価値創造とグローバル展開をサポート。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたび、住商情報システム株式会社 ("SCS") と株式会社CSK ("CSK") は経営統合し、新会社「SCSK株式会社」として第一歩を踏み出すことになりました。  
現在、国内のIT市場は成熟期を迎えており、競争が一段と激しくなる中、業界再編の動きが現実味を帯びたものとなってきています。一方で、ITサービスはますます多様化・高度化し、めまぐるしく変化するビジネスへの柔軟な対応力も求められています。このような厳しい環境の中で勝ち残るには、住友商事グループの一員としての信頼感とグローバルなサポート力を基盤に、これまで堅実な経営を行ってきたSCSと、企画力、行動力、積極性を武器に独立系情報サービス事業者として独自のポジションを築いてきたCSKの経営統合は、またとない飛躍のチャンスであると判断いたしました。

今後は、これまで培ってきた二社の強みを活かし、システム開発からITインフラ構築、ITマネジメント、BPO (Business Process Outsourcing)、ITハード・ソフト販売までワンストップでご提供する「グローバルITサービスカンパニー」として、お客様のビジネスを力強くサポートしてまいります。日本企業のグローバル展開に伴い国内市場の枠を超えて拡大していく市場、いわば「グレートジャパニーズマーケット」への戦略的取り組みがますます重要となってきてい

ます。私たちは、日本流の安心と信頼に裏打ちされたITサービスで、日本企業のグローバル展開を積極的にバックアップしてまいります。

今回の経営統合によって、これまで以上にお客様のビジネスの価値創造に貢献できるものと確信しており、社員一同、気持ちを新たに全力でお客様をサポートしていく所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 中井戸 信英



2012年3月期第2四半期連結業績及び2012年3月期通期連結業績予想

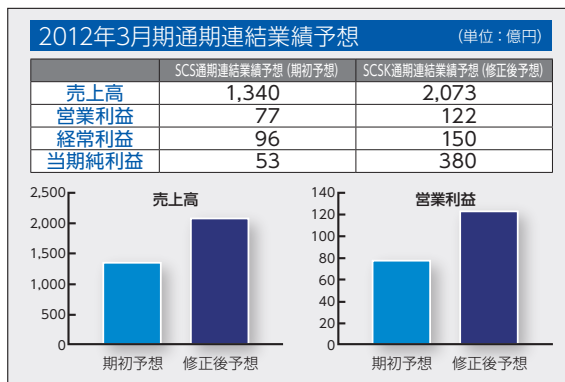
2012年3月期第2四半期連結累計期間における事業環境は、東日本大震災からの復興が進み、企業が生産活動の遅れを急速に取り戻す動きを強める中、顧客企業のIT投資意欲は堅調に推移しました。加えて、震災を受けてBCP(事業継続計画)・ディザスターリカバリー(災害復旧)対策の観点からのクラウド関連ITサービスあるいはデータセンター利用への関心が大きく高まっています。案件の引き合い状況をみても、6月以降は昨年度に比べて堅調に推移しました。一方、現時点では、欧米諸国の景気減速や急速な円高、さらには、タイにおける自然災害等の企業業績への影響が、輸出産業を中心とした企業のIT投資の将来的な抑制につながるリスクも無視できない状況になりつつあります。

こうした状況下、SCSの当第2四半期連結累計期間の売上高は、システム販売の大型案件の一部が下期にずれ込んだこと、また、製造業及び流通業向け等のソフト開発売上高は増加したものの通信・運輸業向け等が減少したこと等により、前年同期比4.8%減の59,609百万円となりました。営業利益は、減収による影響はあったものの、システム販売事業の収益性の向上等もあり、概ね期初計画通りの前年同期比9.7%減の2,222百万円となりました。また、経常利益及び四半期純利益は、投資事業組合への投資に対する運用益の計上等もあり、各々期初計画を上回る前年同期比98.4%増の5,132百万円及び同103.4%増の3,134百万円となりま

した。

通期連結業績予想については、10月1日のCSKとの合併にあたり、今後の事業環境、事業動向、事業戦略施策、さらには、本合併の会計的影響等を考慮し、今後の事業動向を保守的に見通した上で、売上高及び営業利益については、合併両社の期初計画通りの通期業績見通しといたしました。すなわち、存続会社であるSCSの期初の通期業績予想に、消滅会社であるCSKの期初想定の下期業績予想を合算した数値を予想数値としています。

経常利益及び当期純利益については、期初計画通りの事業収益を見込んだ上で、業務の効率化及び将来の営業経費圧縮のための事業戦略施策費用の引当処理、並びに、繰延税金資産の計上を含む合併関連の会計処理等を考慮した予想数値としています。

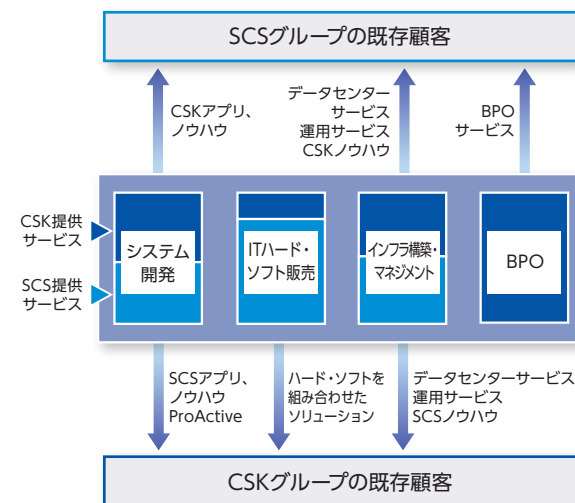


経営計画

基本戦略 1

顧客基盤と提供サービスの拡大

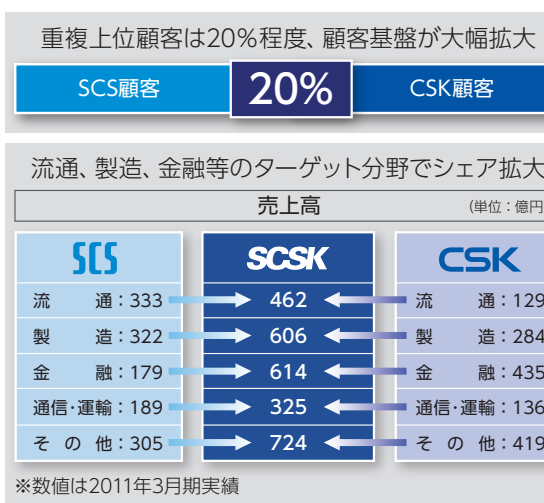
統合新会社SCSK株式会社(“SCSK”)は、SCSが推進してきたProActiveをはじめとする独自ERP製品・サービスやITハード・ソフト販売と、CSKが推進してきたITマネジメントやBPOをあわせ持つことにより、システム開発事業者にとどまらない、ITハード・ソフト販売、インフラ構築・マネジメントからBPOまで、フルラインでのITサービス事業者となることができました。また、SCSとCSKの既存顧客は重複している上位顧客が20%程度と少ない一方、両社が主力とする分野



は、流通・製造・金融等共通しています。従って相当規模の「クロスセル」が可能となり、これまで両社が注力してきた固有のサービスを提供することが可能となる顧客が一挙に増加することとなりました。

重点分野においては、各産業のトップ企業を顧客とし、さらには産業ごとに高度な専門性を有する人材を確保し、いわゆる業務ノウハウといった無形の事業基盤の強化も可能となりました。

これらの顧客基盤・事業基盤の拡充を基に、今後収益機会のかなりの増加が実現可能となったと考えています。



経営計画

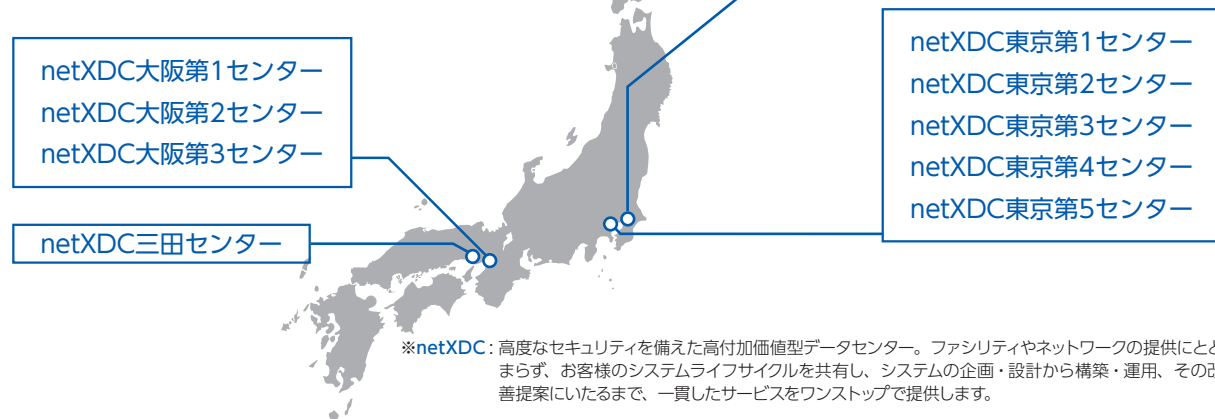
基本戦略 2

クラウド関連ビジネスの拡充

クラウド関連の戦略としては、SCSKの持つ優良資産である、国内10ヶ所にバランスよく配置されたデータセンター資産と、SCSKの業務ノウハウが結集されたアプリケーションやERP等のソフト資産、そしてBPOサービスを組み合わせることで、いままでのシステム構築請負中心のビジネスから、クラウド時代のサービス提供型ビジネスへの着実なシフトを図っていくことを考えています。

市場に魅力のあるサービスを提供していくことにより、我々のサービス提供型事業のマーケットシェアの拡大を図っていきます。

○ データセンター



データセンターについて

SCSKのデータセンターは、6万平米の業界トップクラスの規模を誇り、関東・関西エリアにバランスよく配置されています。また、これらを日本国内で場所を問わず、空スペースを自由に選択できる完全一体化されたデータセンターの操業を可能とするため、すでに全てのデータセンターをネットワーク接続する作業に着手し、年明けにも完全にネットワーク化が完了する予定です。このネットワーク化により、効率的かつ質の面で最高水準のサービス提供が可能になり、昨今のBCP・ディザスターリカバリー需要に応える強固で柔軟なITシステム基盤の提供が可能となります。

基本戦略 3

グローバル関連ビジネスの拡大

SCSKのグローバル戦略の基本は、日本の顧客が海外展開を目指す際に、頼れる日本のパートナーとして「日本流で」全面的に支援をしていくというものです。昨今の円高や電力供給問題等でさらなる海外展開を真剣に検討する顧客が増えている中、その顧客を支えることで、SCSKとしてのマーケットの拡大も図ってい

○ グローバル拠点



きます。3~5年後にはグローバルビジネスを売上高の10%程度まで拡大していくことを想定しています。

また、今後の施策として、日本での人材教育も含めた体制の整備・拡充はもちろんのこと、グローバル展開の当面のターゲット地域をアジアと定め、中国を中心にグローバル人材の採用・育成も戦略的に強化し、グローバルなITサービス提供体制を拡充していく予定です。

経営計画

基本戦略 4

事業の効率化  
システム開発業務の再構築

前述の基本戦略に加え、「収益力強化」「筋肉質化」を図るための礎となる喫緊の経営課題として、既存事業の効率化・生産性向上についても推進していきます。

まず、事業面での効率化として、当社の主力事業であるシステム開発業務を再構築し、生産性の向上を進めていきます。

具体的には、システム開発業務について、SCSカンパニー・CSKカンパニーにおける関連業務の標準プロセスを統一するとともに、業務委託先の一段の整理統

具体的  
取り組み

- 開発標準プロセスの構築
- 生産技術、生産管理のノウハウ蓄積・再利用
- ニアショア開発、オフショア開発、業務委託を含むリソースのコントロール



今後、段階を経て、両カンパニーの開発機能の集約を図る

合を行い、これまでも進めてきた業務委託費のさらなる削減・効率化を推進します。さらに、国内外計10拠点あるニアショア・オフショア開発拠点について、各々本社との業務分担を再度明確にした上で整理統合することで、各事業部門におけるシステム開発業務の生産性を向上させ、高品質化を実現していきます。

また、これらシステム開発業務の再構築を推進する組織として、10月1日付で「開発カンパニー」を設置しました。

基本戦略 5

業務効率の向上

業務の効率化につきましては、システム開発事業における業務委託費の効率化をはじめとして、ハード・ソフトの集中購買等の調達・購買機能の強化、さらには、本社機能の各種業務プロセスの見直し、オフィスの集約、そしてシステムの統合等により、業務の効率化及び経費の圧縮を進めていきます。

総人件費を中心とする営業費用圧縮につきましては、新規採用の抑制、社員の自然減少等による要員数のスリム化を進めていきます。また、人事制度の統合を図った上で、役割、能力、適性に見合った人材再配置を行い、全社としての総人件費の適正化を進める予定です。

中期目標について

中期目標については、現状のマーケットの不透明な状況を鑑み、2015年3月期で売上高3,000億円、営業利益250~300億円、経営指標として営業利益率8~10%、ROE10%以上を目指します。

目標達成に向け、こころばらしくは、昨今の日本、世界の経済状況を勘案し、当面は売上の拡大よりも収益基盤の拡大を重視し、会社の経営効率化、加え

て統合の事業シナジーをしっかりと実現することに軸足を置いて経営を行う方針です。

今後もSCSKの成長のため、また、SCSKを真の「一流」企業とするため、誠心誠意努力してまいりますので、株主・投資家の皆様のこれまで以上のご支援を心よりお願い申し上げます。

中期目標		
	2012年3月期計画*	2015年3月期
売上高	2,760億円	3,000億円
営業利益	150億円	250~300億円
営業利益率	5.4%	8~10%
ROE	—	10%以上

※2012年3月期計画は合併前のSCS、CSKの両社通期連結業績予想を単純合算した値であり、2011年10月31日発表の通期連結業績予想数値とは異なります。

○ 配当について

2012年3月期末配当予想は1株当たり16円です。



# ひとつ、先へ。



住商情報システム株式会社

Sumisho Computer Systems (Asia Pacific) Pte. Ltd.を設立

住商情報システム(大連)有限公司を設立

住商情報システム(上海)有限公司を設立

住商エレクトロニクス株式会社と合併

住商情報システム株式会社に社名変更

東京証券取引所市場第一部に指定替え

Sumisho Computer Service(Europe) Ltd. (現SUMISHO COMPUTER SYSTEMS(EUROPE) LTD.)を設立

東京証券取引所市場第二部に上場

Sumisho Computer Service(USA), Inc. (現Sumisho Computer Systems(USA), Inc.)を設立

住商コンピューターサービス株式会社を設立

株式会社CSKに社名変更

東京証券取引所市場第一部に指定替え

東京証券取引所市場第二部に上場

コンピューターサービス株式会社を設立

1968年 10月

1969年 10月

1982年 6月

1985年 3月

1987年 1月

1987年 10月

1989年 2月

1990年 5月

1991年 9月

1992年 10月

2002年 10月

2005年 10月

2006年 12月

2007年 2月

2007年 3月

2007年 11月

2011年 10月

住商情報システム株式会社を  
存続会社として株式会社CSKと合併し、  
SCSK株式会社に社名変更

2009年 7月

2010年 10月

BPO、ITマネジメント、システム開発の3事業の連携・融合を実現するグループ体制構築を目的として、ホールディングス体制から事業持株会社体制へ移行  
株式会社CSKホールディングスを存続会社としてグループ数社と合併し、株式会社CSKに社名変更

グループ8社のBPOサービス事業を統合して、株式会社CSKサービスウェアを設立

兵庫県三田市のデータセンター設備を取得

ホールディングス体制へ移行し、株式会社CSKホールディングスに社名変更

千葉県印西市にデータセンターを開設

株式会社CSK



## 新社名について



グローバルITサービスカンパニー



SCSKのコーポレートブランドマークは、SCSとCSKが一つの企業となり、これからのITサービスをフルラインナップで担っていく「自信」と「信頼感」を表現した、ソリッドで力強いワードマークです。

しっかりとつながった「C」と「S」は、「SCS」と「CSK」の絆を象徴するだけでなく、革新的な「Computer Service」で創造し続ける「Customer Satisfaction」を表現しています。

先進性と安定感のあるソリッドブルーは、SCSKが創造する未来とその広がりを象徴しています。

住商情報システム株式会社

科目	前連結会計年度 2011年3月31日	当第2四半期連結会計期間 2011年9月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	65,122	57,764
固定資産	56,161	62,694
有形固定資産	32,879	32,647
無形固定資産	6,286	6,280
投資その他の資産	16,995	23,766
<b>資産合計</b>	<b>121,284</b>	<b>120,459</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	23,435	21,522
固定負債	3,280	2,913
<b>負債合計</b>	<b>26,715</b>	<b>24,436</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	94,108	96,448
資本金	21,152	21,152
資本剰余金	31,299	31,299
利益剰余金	50,373	52,703
自己株式	△ 8,717	△ 8,707
その他の包括利益累計額	52	△ 827
その他有価証券評価差額金	862	21
繰延ヘッジ損益	△ 81	△ 87
為替換算調整勘定	△ 727	△ 761
新株予約権	197	199
少数株主持分	209	201
<b>純資産合計</b>	<b>94,568</b>	<b>96,022</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>121,284</b>	<b>120,459</b>

科目	前第2四半期連結累計期間 2010年4月1日~2010年9月30日	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日~2011年9月30日
<b>売上高</b>	<b>62,618</b>	<b>59,609</b>
売上原価	49,081	46,355
<b>売上総利益</b>	<b>13,536</b>	<b>13,254</b>
販売費及び一般管理費	11,075	11,031
<b>営業利益</b>	<b>2,461</b>	<b>2,222</b>
営業外収益	215	2,925
営業外費用	89	15
<b>経常利益</b>	<b>2,587</b>	<b>5,132</b>
特別利益	305	8
特別損失	245	104
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>2,647</b>	<b>5,036</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>1,128</b>	<b>1,910</b>
<b>少数株主損失</b>	<b>△ 22</b>	<b>△ 8</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>1,541</b>	<b>3,134</b>

科目	前第2四半期連結累計期間 2010年4月1日~2010年9月30日	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日~2011年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,022	7,638
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,744	△ 6,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,182	△ 1,252
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 62	△ 11
現金及び現金同等物の増減額	32	43
現金及び現金同等物の期首残高	26,202	25,892
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,235	25,935

参考情報 / 株式会社CSK

科目	当第2四半期連結会計期間 2011年9月30日
<b>資産の部</b>	
流動資産	75,418
固定資産	80,939
<b>資産合計</b>	<b>156,357</b>
<b>負債の部</b>	
流動負債	88,226
固定負債	51,952
<b>負債合計</b>	<b>140,179</b>
<b>純資産の部</b>	
株主資本	11,394
その他の包括利益累計額	△ 4
新株予約権	—
少数株主持分	4,787
<b>純資産合計</b>	<b>16,177</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>156,357</b>

科目	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日~2011年9月30日
<b>売上高</b>	<b>68,379</b>
売上原価	52,699
<b>売上総利益</b>	<b>15,679</b>
販売費及び一般管理費	11,631
<b>営業利益</b>	<b>4,048</b>
営業外収益	1,340
営業外費用	1,551
<b>経常利益</b>	<b>3,836</b>
特別利益	1
特別損失	827
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>3,010</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>711</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>24</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>2,275</b>

株式の状況 (2011年10月1日現在)

株式の総数

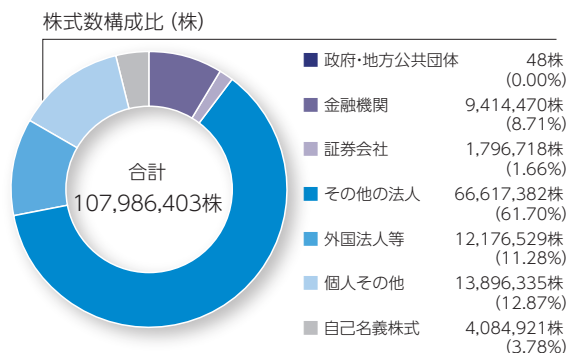
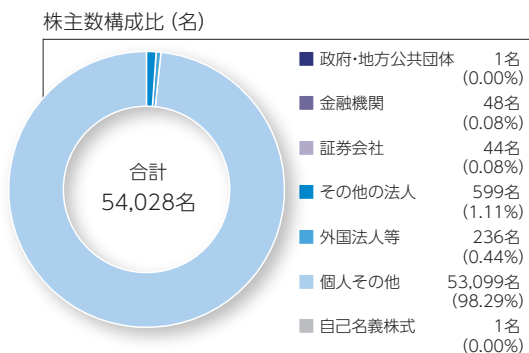
発行可能株式総数	普通株式	200,000,000株
	A種優先株式	15,000株
	B種優先株式	15,000株
発行済株式数	普通株式	107,986,403株
	A種優先株式	15,000株
	B種優先株式	15,000株

大株主 (普通株式)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)	議決権比率(%)
住友商事株式会社	52,498,159	48.62	51.38
合同会社ACAインベストメンツ	12,000,000	11.11	11.74
SCSKグループ従業員持株会	2,384,679	2.21	2.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,137,124	1.98	2.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,534,656	1.42	1.50
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,183,056	1.10	1.16
MORGAN STANLEY & CO. INTERNATIONAL PLC	1,127,910	1.04	1.10
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	1,026,067	0.95	1.00
株式会社アルゴグラフィックス	1,015,500	0.94	0.99
BNYML - NON TREATY ACCOUNT	753,800	0.70	0.74

(注) 当社は、自己株式4,084,921株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

株式分布状況 (普通株式)



会社概要 (2011年10月1日現在)

会社名 …… SCSK株式会社 (英文: SCSK Corporation)  
 本社所在地 …… 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント  
 設立日 …… 1969年10月25日  
 資本金 …… 21,152百万円  
 事業内容 …… システム開発、ITインフラ構築、ITマネジメント、BPO、ITハード・ソフト販売

役員 (2011年10月1日現在)

代表取締役社長	中井戸 信英	取締役	小川 和博	監査役	小島 収
代表取締役	中西 毅	取締役	熊崎 龍安	監査役	朝香 友治
代表取締役	露口 章	取締役	福永 哲弥	監査役	播磨 昭彦
取締役	石村 俊一	取締役	山崎 弘之	監査役 (非常勤)	澁谷 年史
取締役	鎌田 裕彰	取締役 (非常勤)	内藤 達次郎	監査役 (非常勤)	安浪 重樹
取締役	栗本 重夫	取締役 (非常勤)	眞下 尚明	監査役 (非常勤)	海前 忠司
取締役	鈴木 正彦	取締役 (非常勤)	淵上 岩雄		
取締役	谷原 徹	取締役 (非常勤)	古沼 政則		

グループ一覧

海外

Sumisho Computer Systems(USA),Inc.	Sumisho Computer Systems (Asia Pacific) Pte. Ltd.
SUMISHO COMPUTER SYSTEMS(EUROPE) LTD.	希世軟件系統(上海)有限公司
住商情報系統(上海)有限公司	希世軟件系統(大連)有限公司
住商情報系統(大連)有限公司	

国内

ヴェーエー・リナックス・システムズ・ジャパン株式会社	株式会社北海道CSK
SCSKソリューションズ株式会社	株式会社福岡CSK
株式会社アライドエンジニアリング	株式会社CSKニアショアシステムズ
株式会社CSKサービスウェア	株式会社クオカード
株式会社ベリサーブ	東京グリーンシステムズ株式会社
株式会社CSKプレッシュエンド	株式会社CSKアドミニストレーションサービス
株式会社CSIソリューションズ	株式会社パイオニア・ソフト(*)
株式会社CSKシステムマネジメント	楽天バンクシステム株式会社(*)
株式会社JIEC	株式会社エイトレッド(*)
株式会社CSK Winテクノロジー	住商情報データクラフト株式会社(*)
スーパーソフトウェア株式会社	株式会社アルゴグラフィックス(*)

(\*) 持分法適用関連会社



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
配当金支払 株主確定日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
公告方法	電子公告にて掲載。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

### 株式事務取扱場所

株主名簿管理人  
及び特別口座の  
口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人  
事務取扱場所

東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

☎ 0120-176-417

(インターネット  
ホームページURL)

[http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/  
retail/service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

## ホームページのご案内

SCSK

SCSK株式会社



### ▼ 株主・投資家情報はこちらより



SCSK

検索

<http://www.scsk.jp/>

### 免責事項

本報告書は、SCSKグループの業績及び事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、SCSK及びグループ会社の株式購入や売却を勧誘するものではありません。本報告書の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、現時点の当社の判断に基づいて作成しています。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本報告書利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。また、本報告書の無断での複製、転記等を行わないようお願いいたします。

SCSK株式会社

〒135-8110

東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント

UD  
FONT

見やすいユニバーサル  
デザインフォントを  
採用しています。

VEGETABLE  
OIL INK

環境に配慮した  
「ベジタブルインキ」を  
使用しています。